

May 31, 2026

父・子・聖霊による救い

テトス 3:3-7

3:3 私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快樂の奴隷になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。

3:4 しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、

3:5 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。

3:6 神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。

3:7 それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。

きょうは「三位一体主日」（Holy Trinity Sunday）です。「三位」の「位」は「パーソン」のことで、神は「父」、「子」、「聖霊」の三つのパーソンであることを言っています。「一体」というのは、神が三つの「パーソン」でありながら、お一人の神であることを言っています。聖書には「三位一体」という言葉そのものではありませんが、いたるところで、お一人の神が「父」、「子」、「聖霊」であり、「父」、「子」、「聖霊」がお一人の神であることを語っています。そのような存在は人間の世界にも自然界にもありませんから、論理だけで理解しようとしても理解することができません。「三位一体」は理解して信じるというよりは、信じて理解するもの、「三位一体」の神を信じ、「三位一体」の神に救われて、はじめて理解できるようになるものなのです。

一、父なる神による救い

私たちは「父なる神」によって救われます。きょうの箇所には「私たちの救い主である神」（4節）とあるのは、父なる神を指します。人を救うと決意され、その計画をお立てになったのは父なる神です。

救いは父なる神の「いつくしみと人に対する愛」から始まりました。人は自分の罪によって神に背き、生きる意味も目的も分からずに迷い出たものとなりました。3節に「私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり」とあるのは、羊飼である神のもとから離れて迷い出た羊の姿を思い起こさせます。神に背き、苦しみ、滅びていっても、それは自業自得であって、神には罪ある者を罰することはあっても、罪ある者を救わなければならないという義務はないのです。

けれども神は、罪ある者が苦しむのを黙って見ておられませんでした。罪ある者をあわれんでくださったのです。聖書にこうあります。「父がその子をあわれむように／主は ご自分を恐れる者をあわれまれる。」（詩篇 103:13）親は、子どもがどんなに自分を裏切り、辱め、大きな罪を犯しても、なお、子どもが自分のところに返ってくるように、悪事から離れるように願うものです。神は、子どもをあわれむ父のように、ご自分から離れていった者を再びご自分のもとに迎え入れようとなさり、私たちが神に立ち返る道を開いてくださったのです。

そして、私たちが神に立ち返るとき、神は私たちに対して「父のように」ふるまわれるだけでなく、ほんとうに私たちの「父」になってくださるのです。5節に「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってください

ました」とあります。「聖霊による再生」とは、罪人であったものが神の子どもとして生まれ変わることです。よく「生まれ変わったつもりで」と言って、大きな決心をして自分を変えようとしますが、私たちの意志はそれほど強くはありませんから、しばらくすればまたもとに戻ってしまいます。この「生まれ変わり」はそういったもの、人間の力によるものではありません。神が、聖霊によってイエス・キリストを信じる者を新しく生んでくださることを言っています。神は信じる者をご自分の子どもとして生むことによって、ほんとうに私たちの父となられるのです。

ですから、イエス・キリストを信じる者は神を「父なる神」、「天の父」と呼ぶことができるのです。神は、本来は御子イエスの「父」であるのに、イエスを信じる者にも御子と同じ身分、特権を与え、ご自分の子としてくださるのです。イエス・キリストを信じる私たちは天と地を造り、それらすべてを治めておられるお方が、私たちの父であることを知っています。天を仰げば、そこに私たちを大きな愛で愛し、守り、導いてくださる「父」がおられる。私はその父の子どもなのだ。そのことを知り、信じる人生はなんと平安な人生でしょうか。孤独や不安やさまざまな問題が襲うとき、苦しみや悲しみのときも、父なる神の愛に守られて日々を歩むことができるのです。

二、御子による救い

私たちは、また、「御子」によって救われます。6節に「神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです」とあってイエス・キリストは「救い主」と呼ばれています。4節では父なる神も「救

い主」と呼ばれていましたから、イエス・キリストは父と「一体」のお方、神であることが分かります。

神はその愛によって私たちのために救いの計画を立てられましたが、それを実行する人が必要です。罪の赦しのために、神と人との仲立ちとなって「贖い」を成し遂げる人がいなくてはなりません。しかし、いったい誰にそのようなことができるのでしょうか。人間に罪がある限り、どんなに立派な人でも、自分を救うのに必要な「義」（正しさ）さえ持つてはいません。神の基準を満たして、他の人にも与えることができるほどの「義」を持った人など誰もいないのです。そこで神の御子が人となりました。それがクリスマスの出来事です。4節に「神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき」という部分に、また、テトス2:11に「実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです」とあるところに、そのことが言い表されています。神の愛が御子を人として地上に送ったのです。飼い葉桶に寝かせられた赤ん坊はまさに神の愛が形をとったものといつてよいでしょう。

しかし、人々は神の愛そのものであるイエスを受け入れませんでした。3節に「私たちも……人から憎まれ、互いに憎み合う者でした」とありますが、お互いが憎み合うだけでなく、なんと、自分たちの救い主として来られたお方を憎み、十字架の苦しみと死に追いやったのです。

けれども神は、イエスが受けられた苦しみと献げられた命を「贖い」としていただきました。3節に「欲望と快楽の奴隷」という言葉がありましたが、どんな罪でも、罪を犯す者は罪の奴隷です。奴隷が解放されるためには代価が必要で、それを「贖い」といいますが、イエスはその代価にご自分の命を差し

出されたのです。この「贖い」は聖書の最も大切なテーマで、いたるところにそのことが書かれています。テトスへの手紙では2:14にこう書かれています。「キリストは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてきよめるため、私たちのためにご自分を献げられたのです。」

イエス・キリストによって私たちは罪の赦しを受け、罪の束縛から解放され自由な者となるのです。罪のない御子イエスが勝ち取ってくださった「義」を信仰によって受け取って、私たちも「義」とされるのです。これが、御子イエス・キリストが成し遂げ、私たちに与えてくださる恵みによる救いです。御子イエスは天の父のみこころのうちにあった救いをこの地上で成し遂げてくださいました。それは、十字架と復活という誰もが確認できる事実として歴史に残されているのです。

三、聖霊による救い

私たちはさらに、「聖霊」によって救われます。聖霊は御子イエスが成し遂げてくださった救いを私たちに届けてくださるのです。きょうの箇所には救いが父なる神によるものであり、御子イエス・キリストによるものであるとともに、聖霊によるものであることが書かれています。ここには、聖霊の働きについて多くの言葉が割かれています。

5節の「聖霊による再生」についてはすでにお話ししました。それは、私たちが神の子どもに生まれ変わることです。

「刷新の洗い」は「バプテスマ」を指していますが、同時に罪からの聖めをも意味しています。6節に「神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注い

でくださったのです」とあるのは、聖霊が信じる者とともにおられ、また、その人のうちに住んでくださることを言っています。聖霊は、信じる者を内側から支え、生かし、力づけ、癒やし、聖め、導いてくださるのです。

さらに聖霊は私たちの「今」を支えてくださるだけでなく、「将来」への確かな希望を与えてくださいます。7節にこうあります。「それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。」聖霊は、信じる者を神の子どもとして生んでくださいました。神の子どもであれば、神の相続人でもあるのです。子どもが親が亡くなったあと遺されたものを相続する権利を持つのに同じように、神は、イエス・キリストを信じる者に神の国と永遠のいのちを継がせてくださり、聖霊によってそれを保証しておられます。エペソ 1:14 に「聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です」とあるとおりです。聖霊は、今の世での救いばかりか、地上の人生を終えた後の救いの保証となり、私たちに神の国と永遠の命の希望を与え続けてくださるのです。

このように私たちの救いは父なる神から始まり、御子イエスによって成し遂げられ、聖霊によって私たちのうちに働きます。救いは父から御子へ、御子から御霊へとバトンタッチされ私たちに届きます。最後にバトンを受け取る私たちに求められるのは何でしょう。それは、父の愛への信頼です。キリストの恵みを信仰によって受け取ることです。聖霊が与えてくださる希望に生かされることです。

礼拝の祝福の祈りは、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように」（コリント第二 13:13）です。イエス・キリストへの信仰

により恵みによって救われた者は神の愛を受け、聖霊が生み出す神との交わりと信じる者相互の交わりに生かされます。この「三位一体」の祝福の中に生きるとき、お一人の神が父であり、御子であり、御霊であるという神の存在の神秘（奥義）を自ずと受け入れることができ、父、御子、聖霊の三位一体の神に、信仰と希望と愛によって応えていく生活が始まるのです。

（祈り）

父なる神さま、あなたが御子イエス・キリストによって救いを成し遂げ、聖霊によってその救いを私たちの内に働かせてくださることを感謝します。「三位一体」のあなたを拒むところに救いは無く、それを素直に受け入れるところに、父の愛が注がれ、御子の恵みがあふれ、聖霊による希望が確かなものとなります。私たちを、そのような「三位一体」の祝福の中に生かしてください。御子イエス・キリストのお名前です。